

1 病原微生物検出状況報告

感染症サーベランス事業の一環で各定点病院から毎月報告されたデータを「病原菌検出状況報告(医療機関集計)」として集計した。また地研、保健所の集計と定点以外の医療機関の血清型別状況も合せて集計した。

I. 病原菌検出状況報告(医療機関報告)

1994年4月～1995年3月までの病院報告と地研、保健所集計(環境、食品、糞便由来)を示す。サルモネラ分離株を由来別に(河川水、下水、散発

下痢症)示した。また S.aureus をMRSAとMSSAにわけて集計した。

1. 病院報告

菌種、検体別報告(表-1)と大腸菌の血清型(表-2)、Salmonella の血清型を由来別(表-3)、MRSR、MSSAを(表-4)そして特記事項を(表-5)に示す。

糞便：報告数 23件

V.parahaemolyticus が7件、S.aureus が6件、E.coli が4件、Salmonella が3件、V.mimicus

表-1 細菌検査情報(病院・保健所・地研)

(1994.4~1995.3)

細菌名	病院報告							地研、保健所				合計
	糞便	穿刺液	髄液	咽頭 鼻咽喉	喀痰 気道	血液	尿	糞便	河川水	下水	食品	
Esch.coli(total)	4	7				6	130	9		1		157
V.choleare,01(total)								1				1
Salmonella typhi								4				4
Sal.04(B)									3	4		7
Sal.07(C1,C4)								2	3	13		18
Sal.08(C2,C3)								1	6	7		14
Sal.09(D1)	3							19	2	1		25
Sal.01,3,19(E4)									1	1		2
Salmonella その他									1	3		4
Salmonella 群不明								1				1
V.choleare,01 以外								1	10	2		13
Vibrio parahaemolyticus	7							11				18
Vibrio mimicus	1											1
Aeromonas sobria								1				1
Campyrobacter jejuni								2		1		3
Staphylococcus aureus	8	26			126	5	20					185
Staphylococcus コアグララーゼ陰性		17				11	63					91
Streptococcus,A				51	7							58
Streptococcus,B					3							3
Streptococcus,pneumoniae		3		41	19							63
Haemophilus influenzae		2	2	87	28	2						121
Klebsiella pneumoniae		5			83		29					117
Enterobacter spp.							27					27
Enterococcus spp.							48					48
Pseudomonas aeruginosa		10			154		52					216
Mycob.tuberculosis					8							8
Acinetobacter spp.							6					6
合計	23	70	2	179	428	24	375	52	26	33		1212

表一 2 E.coli の血清型

O抗原	H抗原	毒素
O168		ST,LT(-)
O159	H21	ST,LT(-)
O159		
O153	H20	ST,LT(-)
O128	H12	
O26	H20	ST,LT(-)
O26	MN	ST,LT(-)
O20	H2	ST,LT(-)
O18	MN	ST,LT(-)
O18	H4	
O15	H18	ST,LT(-)
O8	H21	ST,LT(-)
O6	MN	ST,LT(-)

が1件報告されている。

穿刺液：報告数 70件

S.aureus 26件、Staphylococcus コアグララーゼ陰性17件、P.aeruginosa 10件と難治性の感染症に多い多剤耐性菌といわれている菌種が多く分離されている。

髄液：報告数 2件

H.influenzae が2件報告されている。

咽頭・鼻咽喉：報告数 179件

H.influenzae が87件と多く、ついで Streptococcus A 郡が51件、S.pneumoniae が41件報告され咽頭・鼻咽喉の報告はこの3菌種が100%を占めている。

喀痰・気道：報告数 428件

P.aeruginosa 154件、S.aureus 126件、K.pneumoniae 83件、H.influenzae 28件、S.pneumoniae が19件、M.tuberculosis 8件の報告がある。

血液：報告数 24件

Staphylococcus コアグララーゼ陰性 11件、S.aureus 5件、H.influenzae 2件が報告されている。

尿：報告数 375件

比較的耐性の少ない E.coli 130件が最も多く、多剤耐性が多いとされている Staphylococcus コアグララーゼ陰性 63件、P.aeruginosa 52件、Enterococcus spp. 48件、K.pneumoniae 29件、S.

aureus 20件が報告されている。

陰部尿道分泌物：報告数 0件

昨年まで報告のあったCandida、Streptococcus B 郡はなかった。

2. S.aureus のMRSAとMSSA(表一4)の分離状況

報告された S.aureus 390件のうちMRSAは150件(38.5%)だった。とくに喀痰からの報告は115件中61件(53.0%)がMRSAで11月に特に多く報告されている。尿は32件中11件(34.4%)がMRSA、また、血液は4件中2件が、糞便は7件中4件がMRSAと報告されている。

3. 重要と思われる症例に関する情報(表一5)

劇症溶連菌感染症

当県も1事例報告があった。

表3 Salmppnella の検出状況

血清型	菌名	由来別				合計
		河川	下水	人	食品	
04	Derby	1	1			2
	Limete	1				1
	Typhimurium	1	3			4
07	Braenderup		1			1
	Infantis		6			6
	Livingstone		1	1		2
	Mbandaka	1	3			4
	Montevideo	2	3			5
	Thompson		2			2
	未同定		1			1
08	Hadar	4	5	1		10
	Blockley	1				1
	Litchfield		1			1
	Nagoya	1				1
	未同定	2	1			3
09	Typhi			4		4
	Enteritidis	2	1	22		25*
01,3,19	Senftenberg	1	1			2
03,10	Auatum		2			2
	Orion	1	1			2
	未同定	1				1
未同定				1		1
合計		19	33	29	0	81

*倉吉河川水1株、食中毒11株を含む。

中四国地方の他県の状況（1991～1995）は広島5、徳島1、高知1が報告されている。

II. 地研・保健所・その他の医療機関からの報告

地研・保健所と定点以外の医療機関からの検出報告及び血清型別状況を（表-1）に示す。

糞便：報告数 52件

V.cholerae 01 1件、S.Typhi 4件、Salmonella spp. 23件、大腸菌 9件、V.cholerae 01以外 1件、腸炎ビブリオ 11件の同定、血清型別、毒素の確認を実施した。

河川・下水：報告数 59件

Salmonella spp 45件、V.cholerae 01以外 12件、

Campyrobacter 1件を分離した。

III. サルモネラ、大腸菌の血清型

分離された Salmonella の血清型別を（表-3）に示す。

サルモネラ菌のうち12月に S.Typhi 4件（ファージ型D2）が検出された。8月、9月に S.Enteritidis による2件の食中毒が発生した。その他の血清型4株が分離した。

腸管病原大腸菌（表-2）は、EPECに該当するもので、VTECやETEC等は検出されなかった。

表-4 1994-1995年に報告された S.aureus (1994.4~1995.3)

		糞便	穿刺液	髄液	血液	喀痰および下気道	気管吸引	尿	陰部尿道頸管	その他			咽頭 鼻咽	合計
										耳漏	鼻腔	膿		
4月	MRSA		2			3		1					3	9
	MSSA					7							5	12
5月	MRSA		2			5		1					12	20
	MSSA		3			1		1					3	8
6月	MRSA				1	5							5	11
	MSSA	1	4			4							16	25
7月	MRSA					5		1					7	13
	MSSA		1			5		1					16	23
8月	MRSA					8							8	16
	MSSA		1			5		2					13	21
9月	MRSA					4		2					2	8
	MSSA				2	8		2					9	21
10月	MRSA		1			6		1					2	10
	MSSA	1	2			5		3					6	17
11月	MRSA	3				11							5	19
	MSSA		2			2		1					27	32
12月	MRSA				1	3							5	9
	MSSA					2							28	30
1月	MRSA	1				3		1			6		9	20
	MSSA	1			1	1		2					23	28
2月	MRSA	1				19							2	22
	MSSA					2		2					11	15
3月	MRSA					6								6
	MSSA					8								8
合計	MRSA	5	5	0	2	78	0	7	0	0	6	0	60	163
	MSSA	3	13	0	3	50	0	14	0	0	0	0	157	240

表-5 重要と思われる症例で分離された菌

1994.4~1995.3			
発症月	株数	由来	菌種
4	1	穿刺液	Str.pyogenes (毒素型A+B, T3 M3)
6	1	糞便	V.cholerae non 01
7	3	糞便	V.parahaemolyticus
8	6	糞便	V.parahaemolyticus
3	1	血液	Str.bovis, H.influenzae の混合感染
3	1	糞便	V.cholerae 海外 (ガム島)
12	4	糞便	S.Typhi (ファージ型はD2)

劇症溶連菌症

検体採取年月日：1994年4月18日

検体の種別：筋穿刺液

検出病原菌：Str.pyogenes

年齢、性別：83才、男性

臨床症状：24時間前後で左大腿部の表面が大きく赤く腫れて水疱を形成し、内部は筋肉がショック状態を起こす。

基礎疾患の有無とその名称：左大腿筋壊死（疑い）

*発熱毒素型 A+B

*T型別 T3, M3

*神奈川県衛生研究所、東京都衛生研究所に依頼した。